

質の高い大学教育推進プログラム 実施状況報告書

大 学 等 名	関西大学		
取 組 名 称	英語に強いプロアクティブ・リーダーの育成		
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組		
取 組 期 間	平成20年度～平成22年度（3年間）		
取 組 学 部 等	商学部	取組担当者	川上 智子
W e b サ イ ト	http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_com/proactive_leader/		
取 組 の 概 要	本取組は、産学官連携・高大連携・海外連携を通じ、英語力とプロジェクト実践力を同時強化することによって、グローバルな舞台で活躍できるプロアクティブ（率先して行動する）・リーダーの育成を目指すものである。具体的には、「KUBIC（キュービック）」「CORES（コアス）」「BLSP（ビ・エール・エス・ピー）」「BestA（ベスト）」の4つの教育プログラムを学部の事業および講義科目として実施している。		

1. 取組の実施状況等

①取組の実施状況 【1ページ以内】

取組の実施体制：本取組の実施体制としては、関西大学商学部が主体となってマネジメントを行っている。「KUBIC」は商学部の公式事業であるビジネスプランコンペティションであり、KUBIC委員会（教員）とKUBIC学生実行委員会（学生）が運営している。「CORES」「BLSP」「BestA」は、いずれも卒業所要単位を修得できるカリキュラム科目である。「CORES」は、ビジネスプランの作成を通じ社会人基礎力を養う2年次演習科目（2単位）で、プログラムの運営はCORESに参加する10数名の教員が共同で行い、そのサポートを前年のKUBIC学生委員やCORES経験者からの学生メンターが行っている。「BLSP」は、2008年度入学生から履修可能な2年半のプログラム（24単位）で、プロジェクト実践力と同時に国際社会のリーダーに求められる英語力を強化し、教職員のBLSP委員会が運営している。最後に、「BestA」は、イギリスのヨーク・セント・ジョン大学と連携した海外ビジネス英語プログラム（4単位）であり、その運営は、商学部教職員組織であるBestA委員会が行っている。

取組の実施計画及び3か年度の教職員・学生数

	2008年度	2009年度	2010年度
KUBIC(関西大学ビジネスプランコンペティション) 4月～11月：学生実行委員の活動 10月：KUBIC本選会	教職員数：5名 学生数：25名 応募数：740件	教職員数：5名 学生数：22名 応募数：989件	教職員数：4名 学生数：23名 応募数：1,025件
CORES(ビジネスプラン教育プログラム) 9月～3月：2年次演習 11月～12月：CORES学生メンターの活動	教職員数：15名 履修者数：169名 (12セミ) 学生数：7名	教職員数：19名 履修者数：183名 (15セミ) 学生数：12名	教職員数：13名 履修者数：145名 (10セミ) 学生数：11名
BLSP(ビジネスリーダー養成特別プログラム) 9月～3月：2年次配当科目(3科目) 4月～3月：3年次演習	教職員数：10名 - -	教職員数：20名 履修者数：176名 -	教職員数：23名 履修者数：175名 履修者数：45名
BestA(海外ビジネス英語プログラム) 8月：海外ビジネス英語研修	教職員数：6名 履修者数：27名	教職員数：8名 履修者数：18名	教職員数：9名 履修者数：33名

社会への情報提供：本取組の内容や英語教材は、取組専用Webサイトを通じて、取組の概要や各プログラムにおける行事予定等を広く公開し、商学部や大学Webサイトにおいても、取組関連情報を積極的に発信した。また、本学にて発行の広報紙「関西大学通信」「関西大学ニュースレター Reed」にて取組記事を掲載し、さらに、マスコミ各社を集めて定期的に開催される記者懇談会においても、取組の紹介を行った。

②. 取組の成果 【1ページ以内】

本取組の目的は、「KUBIC」「CORES」「BLSP」「BestA」の4つの教育プログラムの有機的な連携を図ることによって、英語力とプロジェクト実践力を養成することである。

■**KUBIC**：本事業では、全国の高校生・大学生他からビジネスプランを募集し、2010年度は1,025件の応募があった。このイベントを運営するのは、学生ボランティアから構成されるKUBIC学生実行委員会である。そして、2009年度、2010年度に活動した学生委員は、学内食堂との共同企画で学食メニューの公募コンテストを行い、商品化につなげるなど、率先して考動した。本取組による支援を通じて、より多くの生徒や学生に広報活動を展開し、また、教育効果という点では、運営主体の学生に講義で得た知識を実践する場を提供でき、社会人基礎力である思考力・行動力・チームワークの育成を図ることができた。

■**CORES**：本プログラムは、2年次演習科目で、教員の指導の下、半年間のゼミ活動を通じ、商学部の講義で学んだ専門知識を駆使してビジネスプランを企画しプレゼンテーションしていく実践的な能力を培っている。本取組によって、上位年生がメンターとして下位年生を支援するCORESメンター制度を構築できた。成果として、CORES参加ゼミの1チームがKUBIC2010で全国優勝を果たした。

■**BLSP**：本プログラムは、英語とプロジェクトをダブルゼミ方式で行う、グローバル・ビジネスリーダーの育成を目標としたプログラムである。アメリカ合衆国シトル市にあるワシントン大学で一週間の海外ワークショップを実施する等、英語力とプロジェクトの実践力強化を図っている。英語力は2年間でTOEIC800点、各自200点の伸びを目標とする。3年次の学生が受験したTOEICの得点を比較すると、4月と11月では平均54.5点の伸びがあった。また、600点以上が10名から17名に増加し、うち1名が600点台から800点台に到達するなど、履修者の英語力は確実に向上した。

■**BestA**：本プログラムでは、英語力の伸長度を測定するため、参加者全員に出発前後のTOEIC受験を義務付けている。BestA2010では1ヵ月コースで52.3点、1学期コースでは109.4点の伸びがあった。とりわけ1学期コースでは、470点（6月）から700点（1月）と230点もアップさせた学生が存在した。

さらに、BLSPおよびBestAは、いずれも学生の英語教育を重点的に行うという特徴を有している。そこで本取組では、両プログラムに参加する学生にiPodを貸与し、インターネット等を介して商学部教員が作成したオリジナルの動画・音声教材をダウンロードできる仕組みを構築した。その成果として、関西大学が参画したiTunes Uに、本取組の音声・動画教材を継続的に配信することが可能となった。

以上のように、本取組の最大の成果として、4つのプログラムが商学部の事業やカリキュラムとして定着し、互いの相乗効果が得られたことが挙げられる。その結果、「英語に強いプロアクティブ・リーダーの育成」という目標は着実に達成されつつある。

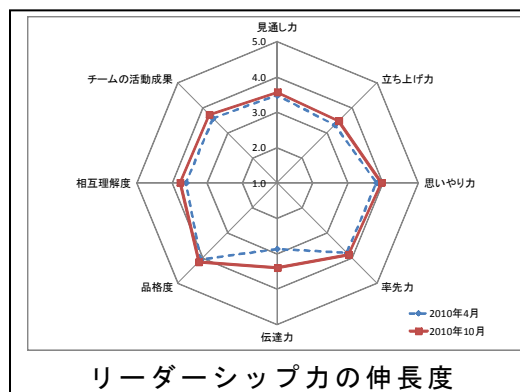
最後に、本取組は、教育改革に対する教員の参画意識を高め、ファカルティ・デベロップメント（FD）としての意義もあった。KUBIC委員会、BLSP委員会、BestA委員会では、教員が定期的に教育の内容や方法等を真摯に議論している。CORESで学期末に開催する全ゼミ合同発表会では、学生同士の相互評価の場であるだけでなく、各教員が指導の成果を共有するFDの場としても機能していることを付言しておきたい。

③. 評価及び改善・充実への取組 【1ページ以内】

本取組の評価・改善は、自己点検・評価ユニットを組織化し、学外から実務家・リーダーシップ研究の専門家を招き、教育内容等に関する指導と助言を得て改善を行ってきた。

具体的な評価・改善体制としては、まず英語力については、TOEICの得点とともに、英語力を独自に測定する質問票調査を定期的実施している。すなわち、英語力をUnderstanding(Listening/Reading), Speaking(Spoken Interaction/Spoken Production)の4次元でとらえ、フェーズ1からフェーズ3までの達成度を定点調査で測定している。次表が、各フェーズの英語能力を測定する代表的な項目の例である。

	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3
Understanding Listening	日常生活の身近な話で使われる語彙を理解することができる。	興味・関心のある話題に関するまとまりのある話を理解することができる。(講演、講義など)	社会的な話題に関する話を理解することができる。(環境問題に関する講演など)
Understanding Reading	一般的に書かれた説明文章を理解することができる。(旅行者向けのガイドブックなど)	英字新聞で社会的な出来事に関する記事を理解することができる。	雑誌の社会的、経済的、文化的な記事を理解することができる。(TIME/Newsweek)
Speaking Spoken Interaction	日常生活で、なじみの深い話題について簡単なやりとりができる。	日常生活や旅行先で、なじみの深い、または興味のある話題について即興でのやりとりができる。	ネイティブスピーカーと流ちょうにやりとりができる。なじみの深い、または興味のある話題について、自分の意見を説明したり支持したりできる。
Speaking Spoken Production	日常生活の身近な状況を簡単な語彙を使って説明することができる。(欠席の理由など)	自分の仕事や専門分野に関する講義や発表などを聞いて、それについて質問したり自分の考えを述べたりすることができる。	自分の専門分野の話題に関して、詳細に説明したり、論理的に意見を述べることができる。



次に、リーダーシップ力は、学生対象の意識調査を定期的実施し、伸長度の定点調査を行っている。左図は2010年4月と10月の測定結果であり、この半年間で、リーダーシップ力を構成する、見通し力・立ち上げ力・思いやり力・率先力・伝達力・品格度・相互理解度のいずれもが高まったと学生が認識していることがうかがえる。

以上のような定量評価に加え、学生からの定性的な情報収集も行っている。2010年度には、自己点検・評価活動の一環として、BLSP・BestAでは、教員と履修者との座談会を実施し、プログラム内容に関するフィードバックを得た。学生の声を参考に、現地での学生主体プロジェクトの追加、現地でのクラス編成の改善等が実施された。

最後に、本取組に関する大学の認証評価については、学校法人関西大学自己点検・評価委員会が自己点検・評価の基礎資料として毎年度発行している「学の実化データブック」に、4つの教育プログラムに関するデータ(「KUBIC」「CORES」「BLSP」「BestA」)を掲載しており、大学執行部を含む、学内の教員等からの助言を得る際に活用している。

④. 財政支援期間終了後の取組 【1ページ以内】

本取組は、商学部の教育理念である「品格ある柔軟なビジネスリーダーの育成」に沿った内容である。また、「英語」と「会計」に力を入れる中で、本取組は、「2. 取組の全体像」で示した概念図のとおり、学部全体のカリキュラムと強く関わるものであり、当然、財政支援期間終了後も継続して取り組んでいくことになる。

取組継続に係る経費に関しては、関西大学では独自の GP 取組継続支援制度が整っており、年間上限 300 万円（最長 5 年間）の財政支援が受けることができ、2011 年度については既に本取組も支援を受けることが決定している。

2011 年度は、この 300 万円の予算を、英語の教材作成のためのティーチング・アシスタントの雇用、BLSP の海外ワークショップや BestA の事前打合せのための海外出張、広報活動に必要なプログラム・パンフレットの企画・印刷等に使用している。

本取組は既に商学部の事業やカリキュラムとして実施しているが、今後は、GP 期間中に実施していた事業の規模をどの程度まで継続できるかが課題である。とりわけ、海外の大学との連携に関しては、国際情勢の変化と共に、テロや震災への備え等、新たなリスク管理の必要性が生じている。また、提携校との長期安定的な関係の継続にも定常的かつ緊密な情報交換が必要となり、限られた予算の中では実現に向けて厳しい面も予想されるが、大学関係部局と調整し、課題の克服に向けて努力を続けたい。

他方で、新しい方向性として、商学部では、ここ 1~2 年で目覚ましく普及しているスマートフォンや電子書籍リーダーといった電子携帯端末を利用した e-learning の強化に取り組んでいる。

本取組においては、iPod を利用した英語の音声・動画教材の作成を推進し、多くの音声・動画教材を作成して、商学部の Web サイト上や Podcast で公開した。これらの素材やインフラを活かし、学生のシームレスな学習環境を整えるために、今後は iTunes U の活用を含め、e-learning の可能性をさらに追求していく予定である。

技術革新の成果としての新たな携帯情報端末を教育ツールとして活用し、文字情報だけではなく、音声や写真や動画を使った豊かな教育教材を提供することは、学生の学習意欲を持続させるうえで有効である。「英語と会計に強いビジネスリーダーの育成」を目標として掲げる関西大学商学部では、英語やリーダーシップに関する教材に加え、簿記や会計に関する教材を作成する新たなプロジェクトをこの 4 月より発足させた。このプロジェクトに係る経費については、学内の教育促進費に申請し、学内審査の結果、採択を得て、300 万円の支援を受けている。

今後の具体的な活動計画として、ビジネス英語教育に関しては、英文法解説や和英辞書解説のコンテンツ、会計教育に関しては、簿記演習問題のコンテンツを作成・配信することを予定している。また、BLSP の教員の専門分野であるリーダーシップ、CSR 等に加え、IT 業界の専門用語、就職活動対策等に関するコンテンツを学生自身が作成し、他のゼミや下位年次の学生に提供するという仕組みも構築しつつある。

このように、本取組の成果を受け、商学部では、さらにその成果を横展開し、より充実したカリキュラムを学生に提供するための試みが始まっている。同時に、その成果は、商学部の学生のみならず、関西大学の他学部生や一般向けにも公開する方向で、引き続き、質の高い教材の作成とその提供方法について検討を行っていく。

2. 取組の全体像 【1ページ以内】

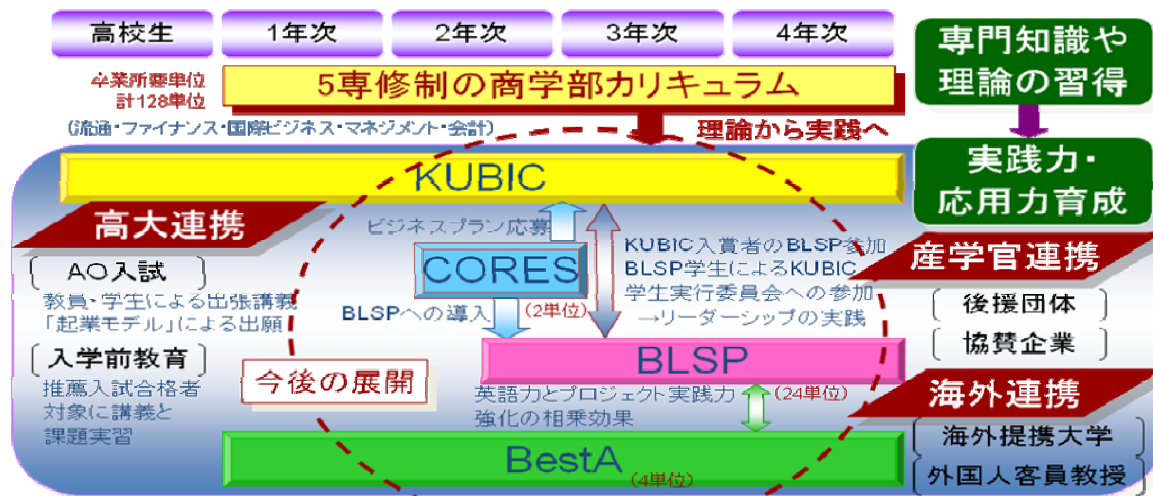
下図が本取組の関西大学商学部カリキュラムにおける全体像を示した図である。商学部のカリキュラムは5専修（流通・ファイナンス・国際ビジネス・マネジメント・会計）を軸とし、専門知識や理論の習得を目指している。本取組は、各専修科目等で習得した専門知識や理論を基に、英語力・プロジェクト実践力を育成するものである。

これらの推進母体の最終意思決定機関は、関西大学商学部教授会である。意思決定の流れとしては、個々のプログラムを担当する KUBIC 委員会、CORES 事務局、BLSP 委員会、BestA 委員会において検討を行い、商学部長を中心とする執行部と教学委員会において学部レベルでの調整を図り、最終的に教授会で審議・決定する。

下図の通り、本取組には、高大連携・産学官連携・海外連携という3つの特徴がある。高大連携では、AO入試や入学前教育の機会を通じて、高校生に KUBIC への応募を促している。産学官連携では、4つの全てのプログラムにおいて、協賛や後援等の形で、企業や行政団体・NPO 法人等との連携を行っている。海外連携では、BLSP と BestA において、毎年計 90 名前後の学生を海外の大学に派遣している。また、外国人客員教授を招聘し、夏期集中講義として『ビジネス特殊研究（市場導入のケース分析）』を開講している。

本取組を通じて、4つのプログラム間の相乗効果も高まってきた。たとえば、KUBIC を運営する商学部内の KUBIC 学生実行委員会では、CORES や BLSP の履修学生が中心的に活動している。2年次演習の CORES は、KUBIC への応募を目標としてビジネスプランの指導を行い、かつ3年次から BLSP に進むための導入科目として位置づけられている。BLSP と BestA は両プログラムを受講する学生が増加している。このように本取組の4つのプログラムは、相互に関連し、学生の多面的な能力の育成に資している。

今後は、本取組を先行例として、会計等の他の専門分野における商学部の実践プログラムの推進にも応用し、教育内容の一層の充実を図っていく予定である。また、本取組で構築された学習環境提供の仕組みについても、より多様な分野での教材作成に適用し、iTunes U や Web サイト上での発信を充実させ、商学部のみならず、関西大学の他学部や他大学に対して、本取組の成果を広く公開し、共有していきたい。



関西大学商学部のカリキュラムにおける展開